



ロシア ウクライナを公然と プーチン侵略

2月24日、ロシアは公然とウクライナをミサイルや爆撃などで攻撃。ウクライナ軍の施設や空港などをまず破壊して侵略を開始しました。26日現在200カ所近くを攻撃し、地上戦も開始。首都キエフに迫っています。21世紀の今日、このような野蛮なことが堂々と行われた

ことに世界中が驚愕し、怒り、悲しんでいます。侵略者の常套手段で、正当性を主張す



ドイツではプーチン抗議の10万人デモ

るために事前の綿密な準備を重ねたようです。

ウクライナのロシア系住民が虐待あるいは虐殺されていると主張し、足を失った男性の写真などを公開したり。ウクライナが核兵器を持っているなどのウソを繰り返し流しています。

◆ロシアがウクライナに執着する理由は大きく2つあると言われます。①国家安全保障に関し、隣国はすでに北はバルト3国までNATOに加盟し、いままた西のウクライナまで加盟しようとしている。このロシア包囲網から守るため。②もう1つはロシアとウクライナの歴史的・文化的親近性に関係するものです。

近いから親近感を持つというのではなく、この地域は「ロシアの勢力圏だ」という時代錯誤の主張です。

◆この地域はいわゆるスラブ系の民族が支配してきました。言語はスラブ系で文字もキリル文字を使い、ギリシャ正教を信仰するなど共通の文化を持つ。しかしそれが他国を侵略したり併合したりする根拠にはなりません。

第二次大戦後やっと作り上げてきた、それぞれの国や民族の独立を尊重する国際秩序を無視したこの戦争は世界全体の秩序を根こそぎ破壊する暴挙です。

万一口ロシアによる属国化が進められた時、憎しみの連鎖が底流として続き、「力による秩序変更」のツケがロシア自身に及ぶことは避けられません。

ところが日本ではこれを幸いと、改憲勢力がこれを軍備拡張のために利用しようとしているのは許せません。今こそ戦争反対の声を大きく世界に広げましょう。

＜ウクライナ略史＞

ウクライナは世界の穀倉ともいわれる肥沃な土地に恵まれた農業大国であり、様々な勢力がここを狙って興亡した。

8世紀にはルーシという国が誕生しキエフを首都とした。その後モスクワ大公国やモンゴルに支配された。

一方、この地域全体への支配が及ばず、15世紀後半、権力の空白地域となっていた「荒野」で、武装した集団がコサックと言われる特殊な共同体を作り、ポーランドやリトアニアの臣下になっても国王の支配を受けず、軍人の特権と自治制を持ち、国家の支配から独立した勢力を誇った。今もその歴史は残っている。19世紀にはロシア帝国は強大化し、汎スラブ主義を主張して支配の拡大を狙った。

1917年にロシア革命が起こり、1920年にソビエトが勝利。ウクライナ社会主義共和国が成立。第二次大戦時は独ソ戦の激戦地となって人口の2割におよぶ被害者を出す。戦後は国際連合加盟国として総会に議席をもつが「ソ連の一部」扱い。

1985年のゴルバチョフのペレストロイカの動きの中で民族運動が活発化。1990年には最高会議の議員選挙が実現。民主派が多数の議席を獲得。最高会議は7月に「主権宣言」を採択。8月24日に独立を宣言。

しかし東部と西部では歴史が異なる。東部はかつてロシア共和国の一部だったが、ソ連のフルシチョフによってウクライナに割譲された地域でもある。そのため、この地域のロシア系住民は自治を要求し、クリミア半島では武装闘争も続いていた。

そこにプーチンは2014年、国法にもない住民投票などを用いてクリミア住民が望んだ独立という形式を作り上げ、その国の希望でロシアへ併合するという形にしてクリミア半島を奪い取り、いままたさらに二つの地域に同様な形で領土を拡張するばかりでなく、NATOに傾くゼレンスキー大統領を退陣させ、ウクライナ自体の政権転覆を狙って武力制圧を進めている。

2022年
流山憲法集会
5月14日(土)

生涯学習センター 13:00 開場 13:30 開会

講師 柳澤協二さん
「国内外情勢の中で考える護憲」



改めて戦争を考えるために

学生、戦時下の強制労働―「私の学徒動労働員日記」
(昭和20年) (後平井) 鈴木光治 (3)

1月22日 特攻隊は自殺攻撃隊

B24の搭乗者の死体から発見された陣中日記に次のように書かれていたという。

最近、日本軍に特攻隊と呼ぶ特殊な航空部隊ができ、昨日もレイテ島方面とスール海方面で我が方の空母がそのために撃沈されたという話だ。何でも一機で体当たりをするのであるという。こんな戦法は全く初めてだ。恐らく全世界どこを探しても発見できないであろう。上官たちは「あれは一人で千人の命を殺害させるから国際法違反である」と憤激している。戦友たちも特攻隊の話が出ると恐ろしいと顔色を変えてしまう程だ。近ごろの兵営内では特攻隊の話は禁止されてしまった。

一人で千人の殺害、なるほどうまいことを言ったものだ。そう言えば先日も特攻隊の誠隊は四機で行って航空母艦一つと戦艦一つを轟沈している。近ごろの戦果のすばらしいものは、ほとんどといっていいほど特攻隊のおかげである。自分の命を投げ出して憎きアメリカをやっつけ、我が国を救おうとしている神風特攻隊の勇士に心からなる感謝を捧げる。……敵艦めがけて急降下して煙突に突入した瞬間、敵艦は真っ二つに割れて轟沈したとか。まず一機が敵艦に突入してあけた突破口のなかに続いてもう一機が突入、見る見る内に敵艦は沈んでいったとか……。その特攻隊の人たちのくらしがバラックかアンペラの掘立小屋でゴザの上に毛布一枚をまとして寝るのだそうだ。……三度の食事も握り飯が二、三個ずつか、まずい乾燥野菜のすまし汁だという。まったくおれたちは不平を言えたものではない。……不順な気候と不備な食糧と装備で、特攻隊の人たちが命を捨てて戦っていることを知ると、おれたちも増産に励まなくてはいけない。飛行機の生産が伴わないばかりに、必中を期して命をなげだすという特攻隊を作らざるを得なかったといわれている。……苦しい時とか不平がとび出そうな時には「特攻隊を思え」と言おう。死んだ気になって御国のために尽くすのだ。そうすればできないことがあるのか。これこそ大和魂であり武士道の精神ではないか。

人間を爆弾にし、一発必中をねらうというやり方は残酷だけど仕方がない。自分を殺すことによって敵を殺すのだ。この点で我が国とアメリカなどは根本的に違うのだ。アメリカ軍は「降服しても生き残れ」と兵隊に教えているそうだ。米国内では戦死者はひそかに葬式をおこなうが、生還した者は優遇されるのだそうである。まったく笑止千万である。だから敵の兵隊はどうしたら命だけはたすかかを考えている……こんなことが平気なほど下から上までだしがないのである。捕虜なんか唯ひたすらに命だけを助けてくれというそうである。これでよく戦争ができるものだとあきれてしまう。

戦う以上、死ぬ気でなければならない。戦争は殺しあいだ。

鹿児島県鹿屋(かのや)基地に 無人攻撃機配備

米軍の無人攻撃機MQ9リーパーを海上自衛隊鹿屋基地に一時展開させる計画が進められています。

2月9日、防衛省九州防衛局の伊藤哲也局長が鹿屋市の中



西茂市長とは市役所で面会し計画の検討に必要な現地調査を防衛省と米軍合同で今月下旬にも行う方針を伝え、地理的位置関係など鹿

屋基地が最適だと説明。中国を念頭においた対応です。

無人攻撃機は米軍の兵士の犠牲者を出さず、世論の反対を避けることが出来、殺人や破壊の罪悪感もなく戦争を遂行することが出来ます。MQ9は無人機の中で最も攻撃能力が高く、イラクやアフガニスタンなどの「対テロ」戦争に投入。多くの無辜の市民を誤爆、殺害してきました。リーパーは死神を意味します。地元では自衛隊基地の米軍基地化に反発の声が高まっています。

放射性廃棄物を「輸出」

2月9日の参院資源エネルギー調査会で政府が進める放射性廃棄物の輸出解禁の動きについて日本共産党の山添拓議員が政府や原子力規制庁の姿勢を正した。

福島第一原発など多くの原子炉が今後廃炉になる。その際生じる放射性廃棄物は国内処分が原則とされているが、「エネルギー基本計画」では、国内処理が困難な大型機器の「必要な輸出規制の見直しを進める」と明記したことを追及。資源エネルギー庁の松山泰浩電力・ガス事業部長は「円滑に廃炉を進めるために必要な見直しだ」と答弁。山添氏は電事連会長が2020年7月、当時の梶山弘志経済産業相に「大型金属の海外処理」の対応を求め、米エネルギー省幹部が経産省に日本からの輸出をもちかけたと告発。

松山部長は答弁拒否、山添氏は「これは輸出というより金を払って受け取ってもらうものだ。米企業は廃炉ビジネスでもうけ、日本の電力会社は“これ幸い”と乗っかるということだ」「自ら責務としてきた国内処理ができないとみるや輸出に道を開くのは開き直りで「言語道断だ」と批判。



緊急
抗議行動

3月9日(水)

14:00~15:00

南流山駅

15:30~16:30

おおたかの森駅

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会・流山